

2018/04/15

## 「信仰の働き」

人の本質と神の本質は、まったく同じです。人は神に似せて造られたものだからです。神の本質は愛です。愛とは関わりを指すものであり、三位一体の神の関わりとは、一つ思いを共有して一致する関わりです。ですから、哲学的な表現では、「愛とは結合である」と言われます。

私たちは、その神に似せて造られているので、私たちの中心には、結びつきを求める思いがあります。この愛の衝動によって、私たちは、神に結びつこうとする運動をして生きています。これを信仰と呼ぶのです。

ところが、この世界は悪魔の仕業によって、神との結びつきを失ってしまいました。これを死の世界と呼びます。神のいない死の世界では、神と結びつくことはできません。

そのため、神を求める思いは、神の性質である自由を求める運動に変わりました。それは、可能性の追求です。仕事・科学・スポーツなど、人は皆自分の可能性を追求します。しかし、このような自分の可能性を追求することを、偶像礼拝と呼びます。残念ながら、この世界では、神に結びつこうとする運動は、偶像礼拝にしかかなり得ないのです。この世界には、神がいないからです。

しかし、人は神を求めており、その結果、目に見えないものを求めて、自分の可能性を信じて生きています。人を愛するのも、実は、神を求めて生きていることの表れなのです。

このように、すべての人は神を求める運動をしているのですが、この世界で最高の関わりを得ようとする、争いが起こります。自分の求めているものこそが最高のものだ信じ、人と比較し、他の物を否定するからです。結局、この世界で神に近づきたいという願いを持って、決して近づくことはできないのです。

そこで、イエス・キリストは、次のように言われました。

「わたしを遣わした父が引き寄せられないかぎり、だれもわたしのところに来ることはできません。」(ヨハネ 6:44)

人から神に近づくことはできないが、神が引き寄せることによって、それは可能になるということです。

私たちは、自分の力では外に出ることができない深い穴に落ちているようなものです。その穴から脱出する唯一の方法は、外からロープを垂らしてもらうことです。そのロープにしっかりとつかまれば、引き上げてもらえます。こうして私たちは神に近づくことができます。

## ■信仰の具体的な働き

### 1. 信仰は神のことばを受け取る運動をする

私たちを引き上げるために、神様が垂らしたロープとは、神のことばです。神のことばがはっきりと書かれているのは聖書ですが、聖書の言葉を知らない人でも、一人一人の心に神のことばが書き記されています。それは、私たちの良心です。ですから、すべての人は、常にロープが垂らされている状態なのです。

信仰とは神に近づこうとする運動であり、それは、神のことばを受け取り、しがみついた運動をします。これが基本です。こうして、神のことばを受け取ると、さらに具体的な信仰の働きが見えてくるようになります。

### 2. 信仰は疑いを引き受ける働きをする

神のことばを受け取ろうとする時、私たちの心の中に、必ず疑いが生じます。信仰は、その疑いを引き受ける勇気となります。

「というのは、肉の思いは神に対して反抗するものだからです。それは神の律法に服従しません。いや、服従できないのです。」（ローマ 8:7）

肉の思いとは、今私たちが生きている有限の世界での知識や経験から生まれた思いです。しかし、神のことばは永遠の世界に属する言葉であるため、神のことばを受け取ろうとすると、肉の思いはそれを疑い、激しく抵抗するのです。

もし、神のことばを受け取ろうとしなければ、疑いは生じません。ですから、疑いが生じるということは、神のことばはあなたの中に生きて働いている証しです。私たちは、神のことばを素直に信じられない時や、福音を伝えてもなかなか信じてもらえない時、よく失望してしまうものですが、疑いや疑問が生じるということは、その人が真剣に神の方向に向かって動いている証拠なのです。信仰は、その疑いを引き受ける運動をします。もし、この疑いを引き受けるものがなければ、人は神のことばを受け取ることはできません。

もし、疑いが生じないなら、その信仰は静止しています。神のことばに疑いを感じるのが、この世に生まれ育った私たちのありのままの姿なのです。

### 3. 信仰は惨めな自分に気づかせる

私たちの魂は神を知っていて神に近づきたいと願い、信仰は疑いを背負おうとしているのに、現実には疑いにつぶされてしまう自分を見て、私たちは、なんと自分はみじめなのだろうかと気づき始めます。しかし、それが、信仰が動いていることの証しです。もし、自分は罪人ではない、立派だと言うなら、その人は信仰が静止してしまっています。信仰が動いている時には、罪深い自分に気づくものです。

「私は、ほんとうにみじめな人間です。だれがこの死の、からだから、私を救い出してくれるのでしょうか。」（ローマ 7:24）

#### 4. 信仰は神にあわれみを乞う

パウロは信仰の人であり、人々に、信仰によって生きよと熱く語り続けました。そのパウロが、自分はみじめな人間だと言うのです。信仰が動けば動くほど、神のことばを素直に受け取れないみじめさを知り、誰がここから救ってくれるのかと、つらさを感じ、「神様、助けてください」と求めるようになるのです。

こうして信仰は、神にあわれみを乞う運動をするようになります。そして神様に助けられる経験に至るのです。

#### 5. 信仰は平和を築く

「私たちの主イエス・キリストのゆえに、ただ神に感謝します。ですから、この私は、心では神の律法に仕え、肉では罪の律法に仕えているのです。」（ローマ 7:25）

自分のみじめさを知り、神に助けを求めて祈ったパウロは、結局、「疑い」という肉の思いを消去することはできないことを悟ります。しかし、同時に、「あなたはそれをそのまま受け入れなさい。それを乗り越える力を与えてあげるから。」という神のメッセージを受け取りました。それゆえに、パウロは「ただ神に感謝する。」と言ったのです。

私は、疑うという肉の思いにも仕えているけれど、同時に神の律法にも仕えることができる、つまり、信仰は肉の思いを吸収することができるのです。

これは、自分の思いだけにとどまりません。信仰は、この世にある様々な考えを否定したり、拒絶したりするのではなく、相手を吸収し、受け入れ、争いを起こしません。もし誰かが神のことばを否定したとしても、争うのではなく、「そうですか。でも私は信じます。」と、相手を否定するのではなく、吸収し、そしてなお、自分の信仰を保ちます。信仰は、平和を築くのです。

#### ■疑いは信仰である

多くの人々は、神のことばを疑う自分を見て、自分には信仰がないと言います。しかし、疑うということは、信仰がないのではなく、むしろ神に近づこうとしている表れです。

信仰の父アブラハムは、サラに子どもが生まれると神様が言われた時、こんな年寄りにあり得ないことだと思って笑いました。彼は、神のことばを本気で疑いました。しかし、追い詰められて神にあわれみを乞い、信仰がその疑いを吸収して、「それでも神のことばを信じる」

という告白ができるようになったのです。真剣に疑うということは、ちゃんと神のことばが働いているということなのです。

モーセは、40年も荒野を旅することになり、本当に神について行っても大丈夫なのだろうか、真剣に疑いました。水がないと不満を言う民に、神様が水を与えようとなさった時、モーセは怒りにまかせて岩を杖で二度打ったりしています。

ヨブは、患難に見舞われ、本当に自分は神に愛されているのだろうか、真剣に疑い、つぶやきました。その結果、惨めな自分に気づき、神にあわれみを乞い、疑いとつぶやきが吸収されて、前に進むことができました。

ペテロも、イエス様が復活することを、真剣に疑い、その結果、イエス様を裏切り、みじめな自分に気づき、神に助けを乞い、回復することができたのです。

パウロは、人々に向かって信仰に生きよと繰り返し説いていますが、もともとは、イエスがキリストであることを本気で疑い、クリスチャンを殺そうとしていました。しかし、その自分のみじめさに気づき、神にあわれみを乞い、信じるようになるように変えられました。

つまり、真剣に疑いを抱くということは、真剣に神に近づこうとしているということなのです。そして、私たちが神に近づけば近づくほど、私たちは疑う自分を吸収しているのです。つまり、信仰が自分と異なる考えを吸収して、神との平和を築いているのです。これが、信仰が目指す5番目の方向です。このように疑いを乗り越えることを可能にするのが、信仰の働きなのです。

## ■健康な信仰

もし神のことばを使って人を裁くようなことがあれば、それは、神のことばを食べようとしているのではなく、自分を義とする方向に進んでしまっています。私たちが、真剣に神のことばを受け取ろうとするなら、決して人と争おうとするとはなくなり、人と平和を築こうとするようになります。

そもそも私たちの中心にあるのは愛です。愛とは結合です。人は、結合を求めて行動していますから、人を受け入れないということはありません。もし私たちが人と平和を築くことを求めず、人を拒むなら、もはや本質的な衝動からずれており、魂が求めるものからずれてしまっているのです。

「ですから、信仰によって義と認められた私たちは、私たちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っています。」（ローマ 5:1）

「あなたがたは、自分に関する限り、すべての人と平和を保ちなさい。」（ローマ 12:18）

健全な信仰とは、神との平和を持つことです。それは、拒絶ではなく、吸収です。信仰が正しく働く時、愛による衝動は結合を求め、平和を築く方向に向かいます。それは、神のことばを受け取り、疑いを引き受け、みじめな自分に気づいて、神にあわれみを乞い、平和を

築く方向に向かうことなのです。

信仰の働きを正しく認識すると、私たちは、自分の信仰が正しい方向を目指しているのか、静止しているのかが分かるようになります。信仰は、あるかないかで判断するものではありません。誰もが持っているものです。ですから、「信仰がない」ということはなく、ただ、健康な状態ではないということなのです。

ギリシャ語聖書が最初に翻訳されたのはラテン語ですが、ラテン語の「救う」という言葉には、「いやす」という意味と、「健康にする」という意味があります。神は、すべての人の信仰を、健康にすることを目指しています。

神のことばを受け取って、神に近づけば近づくほど、あなたの人生は逆転します。なぜなら、神のことばを受け取るとは、罪人が引き上げられ、義人が排除されることだからです。自分はみじめで罪深いと知る人は、神に引き上げられ、近づくことができ、幸せを得ます。自分は正しく偉いと思っている人は、みじめになります。神の世界では、この世で弱く低いとされていた人が高くされ、私たちが患難だと考えていた事が喜びに変わります。

イエス・キリストは、初めての公の説教の冒頭で、次のように語りました。

「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人のものだからです。悲しむ者は幸いです。その人は慰められるからです。」(マタイ 5:3-4)

神に近づけば近づくほど、すべてが逆転します。私たちは信仰によって、この世界にいながら、逆転した世界を見ることができ、平安を得ます。こうして、信仰は安息をもたらすのです。

自分には信仰がないと思うときは、疑う自分を否定するのではなく、ただ神様に助けを乞いましょう。そうすれば、信仰は疑いをそのまま吸収し、神に近づいて神と平和を築くことができるようになるのです。キリストを目指して、神との平和を持ち、人との平和を築くことが、健康な信仰の働きなのです。